

不用の書籍 無料回収、査定 買い取り相当額を植林、苗木購入



「CSR」の活動にも

NPO法人がチャリティー企画

MYNDY BOOK for FOREST(ブック・フォー・フォレスト)は、NPO法人「森のライフスタイル研究所」(03-5672-1711

森と共に生きる ②



森林の手入れを手伝うボランティアら。吉本の有効活用が、こうした森づくりにつながる
＝長野県佐久市で、森のライフスタイル研究所提供

入学や就職、転勤など新生活に向けた春の引っ越しシーズンが到来した。不用品を処分する機会も増えるが、家庭や職場でなくなった書籍などを回収して得た金額を森林再生に役立てる試みが長野県などで進んでいる。本のリネースを通じた森林再生運動だ。
【明珍美紀】

21)などのチャリティー企画で、「不用になった本で森づくりを」と市民や企業に呼びかけている。家庭やオフィスで不要になった本が5冊以上あれば、宅配業者が集荷するので、

紛争・被災地の教育に一役

国際協力NPOが古本回収

紛争や災害に見舞われた地域で緊急支援から復興までをサポートする国際協力

シック」に取り組んでいる。申し込みはインターネットや電話で、書籍やCD、DVDなどが対象となる。提携の宅配業者が集荷するので、

STATION&Shopもノール平和賞受賞者でケニアの元副環境相、ワンガリ・マータイさんが提唱する「MOTTAINAIキャンペーン」では、「ブック・マシク」プロジェクト

は、インターネット中古書販売会社のバリエーション(長野県上田市)が無料で回収、査定したうえで、買い取り金額の相当額が、森林の再生活動に役立てられる仕組み。CD、DVDなども対象となる。提携の宅配業者が集荷するので、全国から本を寄贈するのことができる。同研究所では、長野県佐久市などで、市民ボランティアらと連携した森の手入れや間伐などに取り組んでおり、寄付金は、植林や苗木の購入などの費用に充てられる。同研究所所長の竹

本リネース 森林再生

野鳥観察と雪原散策を満喫

東京電力自然学校

野鳥観察と雪原散策を楽しむ「佐久発電所調整池見学&尾瀬戸倉スノーシューツアー」(主催・東京電力自然学校)が今月5日、群馬県渋川市などで開かれ、19人の親子連れらが自然を満喫した。

佐久発電所(同市)は1928年に完成し、利根川、菅沼川から取水する。調整池には多くの渡り鳥が飛来し、野鳥観察にはうってつけの場所だ。遠くに榛名山(1449m)を望みながら参加者らは双眼鏡を構えた。オシドリなど15種類以上の鳥が飛来するなか、普段あまり目にしないミコアイサ(パンダガモ)の姿があった。白と黒の体毛に覆われ、まるでパンダのようだ。

一行は尾瀬入り口の一つ、同県片品村の戸倉地区にバスで移動。スノーシューに履き替えて森林公園を歩いた一写真。パウダースノーの上をサクサクと音を立てて歩き、大人も子どもも楽しそう。樹上にはクマがいた痕跡である「クマ糞」やタヌキの足跡もあり、野生生物を身近に感じる



一コマもあった。戸倉には、村営施設「尾瀬ぶらり館」があり、館内には「東京電力自然学校 尾瀬・戸倉教室」がある。尾瀬・戸倉に生息する生物の展示や尾瀬の歴史の解説のほか、日帰りや1泊2日で尾瀬・戸倉の魅力を感じることができる「尾瀬・戸倉ECOツアー」も実施している。

東京電力環境部自然環境グループのスタッフで同県出身の星野由加利さん(23)は「いろいろな自然の魅力を楽しむきっかけづくりとしていただければ。また(尾瀬・戸倉)自然と人の魅力が楽しめます。ぜひ足を運んでみてください」と語った。【小野博宣】

「第2回生物多様性 日本アワード」来月から公募・推薦スタート

野生生物の保護や森林の保全などに取り組む人々や団体を顕彰する「生物多様性 日本アワード」の公募が来月1日から始まる。

イオン環境財団(河田卓也理事長)と環境省の共催で09年に創設された。2回目となる今回は、公募制と外部有識者による推薦制による募集を行う。対象となる取り組みは①生物多様性の保全②生物多様性の持続可能な利用。

審査委員は、国立環境研究所地球環境研究センター温暖化リスク評価研究室の江守正多室長ら6人で、審査委員長は両田理事長が務める。グランプリ(副賞100万円)を含めて優秀賞5件を選定する。締め切りは6月30日(必着)。結果は10月に発表予定。応募方法など詳細は同財団のホームページ(<http://www.aeon.info/ef>)で。



選んだ本を仕分けするスタッフ＝バリューブックス提供

「不要になった本の有効活用を人々に促して、社会が森林や地球環境の問題を考えるきっかけになる」。ブック・フォー・フォレストは、長野県NPOセンターの活動にも賛助で参加している。同研究所では、長野県佐久市などで、市民ボランティアらと連携した森の手入れや間伐などに取り組んでおり、寄付金は、植林や苗木の購入などの費用に充てられる。同研究所所長の竹

姜尚中さん「価値観 考えよう」

「価値観」の重要性を「日本人たちへ」が今、さん、環境化者の北野... いる準を上げた人... など次々に展開... だ」と語った。